

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病虫害防除所長
(公 印 省 略)

平成 28 年度 病虫害発生予察注意報第 1 号について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

平成 28 年度 病虫害発生予察注意報 第 1 号

1. 病虫害名： タマネギべと病
2. 対象作物： タマネギ
3. 発生が予想される地域： **県下全域**
4. 発生程度： **多**
5. 注意報発表の根拠
 - 1) タマネギのべと病について平成28年2月29日付で病虫害発生予察注意報を発表したところであるが、4月下旬のタマネギの発病調査では発生圃場率が82.4%（平成：6.8%）、発病株率は52.9%（平成：1.5%）であり、引き続き発生量が多い状況であった（第1表）。
 - 2) 向こう1か月の気象は降水量が多いと予想されており、べと病の発生に助長的であるため、さらに蔓延するおそれがある。

第1表 タマネギ普通栽培におけるべと病の発生状況

発生圃場率(%)	発生圃場率(%)			発病株率(%)	発病株率(%)		
	2月下旬	3月下旬	4月下旬		2月下旬	3月下旬	4月下旬
2006	0	5.6	11.1	2006		2.0	0.6
2007	0	0	5.6	2007			2.0
2008	0	0	0	2008			
2009	0	22.2	17.6	2009		5.5	0.3
2010	0	5.6	0	2010		1.0	
2011	0	0	0	2011			
2012	0	0	0	2012			
2013	0	0	0	2013			
2014	0	0	5.6	2014			1.0
2015	0	0	27.8	2015			3.8
2016	38.9	66.7	82.4	2016	21.9	13.6	52.9
平年値	0	3.3	6.8	平年値	-	2.8	1.5

6. 防除対策
 - 1) 圃場を見回り、発生を確認した場合は直ちに第2表を参考に薬剤散布する。
 - 2) ネギのべと病は、タマネギのべと病と同一の病原菌であるので、今後定植が多くなるネギの発病にも注意する。
 - 3) 排水不良は発病を助長するので、圃場の排水を良くする。
 - 4) 薬剤散布を行う場合には耐性菌の発生を回避するため、同一系統薬剤の連用は避ける。

第2表 タマネギべと病の防除薬剤(香川県主要農作物病害虫・雑草防除指針より抜粋)

薬剤名	成分名	希釈倍数	使用時期/回数
ジマンダイセン水和剤	マンゼブ	400~600倍	3/5
ペンコゼブ水和剤	マンゼブ	400~600倍	3/5
アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン	2,000倍	前/4
ダコニール1000	TPN	1,000倍	7/6
ランマンフロアブル	シアゾファミド	2,000倍	7/4
フェスティバルC水和剤	ジメトモルフ+無機銅	600~800倍	7/3
ナレート水和剤	オキシリニック酸+有機銅	800倍	14/3
リドミルゴールドMZ	メタラキシルM+マンゼブ	1,000倍	7/3
カーゼートPZ水和剤	シモキサニル+マンゼブ	1,000倍	3/3
フェスティバルM水和剤	ジメトモルフ+マンゼブ	750~1,000倍	7/3
フォリオゴールド	メタラキシルM+TPN	800~1,000倍	7/3
アミスターオプティフロアブル	アゾキシストロビン+TPN	1,000倍	7/4
ホライズンドライブフロアブル	シモキサニル+ファモキサドン	2,500倍	3/3
ベトファイター顆粒水和剤	シモキサニル+ ベンチアパリカルブイソプロピル	2,000倍	7/3
プロポーズ顆粒水和剤	ベンチアパリカルブイソプロピル+TPN	1,000倍	7/3
ダイナモ顆粒水和剤	シモキサニル+アムスルブロム	2,000倍	3/3

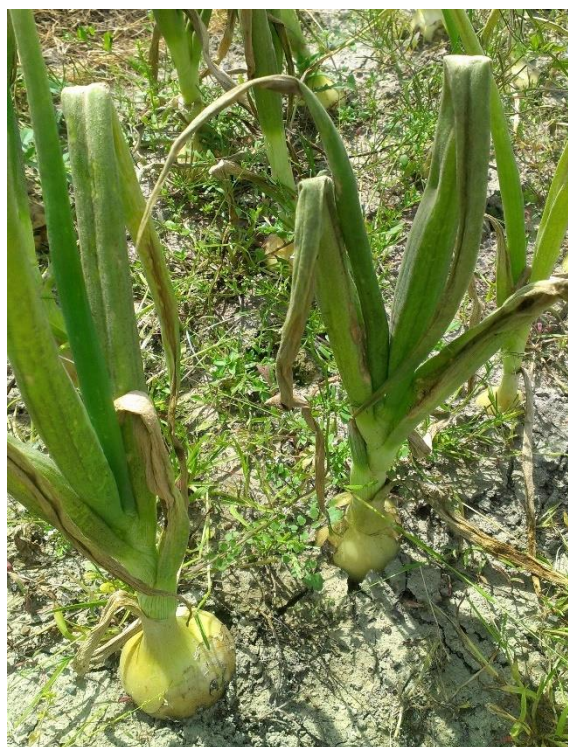


写真1 タマネギ株のべと病の症状



写真2 タマネギ葉のべと病の症状

病害虫防除所インターネットホームページ

URL:<http://www.jpnpn.ne.jp/kagawa/>